

2016 年度「研究者の横顔」 白石 憲史郎先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

「がん」こそが我々が直面している最も身近で最大の難敵であり、医学を志した当初から生涯取り組むテーマと決めていました。とりわけたくさんの乳がん診療の経験を積む中で、患者さんに最大限の貢献をするため貴重なデータを詳細に解析し新しい発見をして診療に還元したいと考えました。

2. 助成研究の内容紹介

早期発見や治療法の進歩に伴い乳がんの予後は向上していますが、その一方でがん自体を克服できたとしてもその後長年にわたってキャンサーサバイバーとして日々の生活を送ることになります。このため他の病気や別のがんに罹ってしまうことが以前にも増して問題化しています。この乳がん以外のがん（二次発癌）の種類や発症頻度を明らかにするため、できるだけ長く多くの情報を収集し解析します。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

本邦の乳がんサバイバーが、後年どのような別のがんに罹りやすいのか明らかになります。得られた結果は、乳がん患者のみならず医療者にも重要な知見となり、治療前の見通しや意思決定に有用なツールとなると同時に、日常生活を送る中で注意すべき点についても示唆できると期待されます。

4. 全国の RFL 関係者に一言

今回の助成を励みにして自分が掲げたテーマを完遂します。ハードルは高いですが、乳がん患者さんを始めとする RFL 関係者の皆様のご期待に添うよう全力で取り組みますので一緒に頑張りましょう。